

# 中大技術士会

## ニュースレターvol.15

会員の皆様へ

新緑の候、いかがおすごでしょうか。

このニュースレターは、会員相互の情報交換を目的に、会の活動内容や会員個人の様々な活動などについてお知らせするものです。

本号では2012年1月～4月の活動内容、第8回定時総会など今後の活動計画のほか会員のエッセイをお届けします。年を経るごとに当会の活動は活発になっています。ニュースレターをお読みいただき、是非、様々な活動にご参加ください。

なお、本号から、「技術士第一次試験合格者から」のコーナーを設け、合格者から受験の動機や二次試験（技術士）への抱負などを執筆していただくことになりました。当会では中央大学理工学部の全学科を対象として「技術士ガイダンス」を実施し、学生みなさんに技術士への第一歩としての第一次試験受験を勧めています。すでに多くの合格者が出ていることから、本コーナーを設けることとしました。これからも若い仲間を応援していきたいと思えます。

また、当会では、会員の皆様からの投稿をお待ちしています。当会 HP から投稿用のフォームをダウンロードして、投稿してみてください。

それでは、ニュースレターをお楽しみください。

内 容	ページ
<b>巻頭言</b>	2 ページ
■ 「中大技術士会のこれから」：中大技術士会 会長 金川 護	2 ページ
<b>活動報告</b>	2 ページ
■ 幹事会	2 ページ
■ CO2環境対策研究会	3 ページ
■ 部会報告	5 ページ
<b>活動計画</b>	5 ページ
■ 第8回定時総会	5 ページ
■ その他の活動計画	6 ページ
<b>エッセイ</b>	6 ページ
■ 「ホームページのアドレスに込めた思い」：小林 進さん	6 ページ
■ 「整体師と技術士は一心同体！」：篠崎 博文さん	7 ページ
<b>技術士第一次試験合格者から</b>	9 ページ
■ 「凡学生が修習技術者になる意味」：長谷川 淳一さん	9 ページ

### ■ 「中大技術士会のこれから」：中大技術士会 会長 金川 護（上下水道部門）

今年は大発足後 8 年になります。発足当初、私の胸の内には中大技術士会のあり方を描いておりましたが、近年の当会の発展の様子を見ると、まさに描いたことが実現しつつあることを実感します。すなわち、当会は中央大学と連携しつつ、あるいは中央大学学員会の一機関として、社会特に産業界と大学を結びつける役割を果たしつつ、中央大学の社会的認知度を上げて行くことに貢献することを描いておりました。



現在、当会からは中大理工学部の授業「科学技術と倫理」「技術者倫理」に 16 名の講師を派遣し、各学科毎に「技術士ガイダンス」を行い、学生に技術士一次試験を推奨するなど、学生に対し大いなる貢献をしております。また、理工学部の先生とは「CO2 環境対策技術研究会」「太平洋ソーラー筏研究会」を立ち上げ、将来へ向けた取り組みを行っております。更に「ミミズロボット」を実用化するため、研究室と企業の仲介をし、共同研究も行っております。

昨年からは中大法曹会とも連携し、技術面から弁護士業務を補完する体制を整えつつあります。本年は中央大学公認会計士会とも連携し、オール中大としてお互いの業務を補完する体制を作ることしております。これら中大技術士会はいろいろな業務に手を広げておりますが、偏に幹事各位のご尽力と理工学部の先生方のご理解のたまものです。

しかし、これらの結果に満足するものではありません。中大技術士会はやっと進むべき道が見えてきたところで、これからは更に研究会の立ち上げや研究室と企業との共同研究を広げることになるでしょう。本当の意味で中大技術士会が大学、あるいは産業界に認知されるには、後 10 年かかると考えております。すなわち中大技術士会の基礎を確立するためには発足後 20 年近くかかると見ております。これからは中大発のベンチャー企業を作り出す努力も必要です。その頃には中大と法曹会、公認会計士会、南甲クラブなど学員会支部と共にベンチャー企業を応援するファンドも立ち上がると思います。これらの成果により、技術士として共同研究のコーディネーターや、ベンチャー企業の技術担当者としての仕事も増えると思います。

中大技術士会の皆さんが中央大学への愛校心とともに、中大技術士会で活躍することにより、少しなりとも成果が得られ、中央大学の名前を上げることができる、そんな中大技術士会にしたいと考えております。それが中大技術士会のあり方と考えております。

今後の皆様のご活躍を心から祈っております。

## 活動報告

### ■ 幹事会

本会では概ね月に 1 度幹事会を行い、各行事の計画や方針などについて話し合っています。通常、中央大学駿河台記念会館の学員会役員室か技術士会草手第二ビルで行います。役員、幹事以

外の会員の皆様にも参加していただけます。是非一度参加していただき、ご意見などお聞かせください。役員・幹事一同お待ちしております。下記に幹事会の内容を報告します。

行事名	開催日程	活動概要
平成 23 年度 第 7 回幹事会	1 月 27 日 ( 金 ) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会で「部会」による活動が確認されたことを受け、各部会の活動報告、活動計画を幹事会で初めて確認することになり、各部会の活動が共通のものになってきた。</li> <li>・「大学支援部会」から、12 月 1 日から開始された各学科のガイダンス予定が発表された。今年度から電気電子情報通信学科及び生命科学科のガイダンスが予定されている。</li> <li>・次年度の「技術者倫理」「科学技術と倫理」講座への講師派遣について講師の提案が確認された。</li> <li>・平成 23 年度技術士第一次試験合格者が発表され、今年度は各部門で昨年より合格者が大幅に低下していることが報告された。その中で、中大は 31 名の合格者を出した。</li> </ul>
第 8 回幹事会	3 月 30 日 ( 金 ) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 24 年度第 8 回定時総会を 5 月 26 日 ( 土 ) に開催することが決まった。</li> <li>・総会時の「特別講演」に、電気電子情報通信学科：橋本先生の登壇が快諾された。</li> <li>・CO2 環境対策技術研究会から研究会の案内があった。5 月 18 日東京ガス ( 株 ) ( 南千住 ) で行われる。詳細は HP に掲載すると共に会員宛にメールで配信し参加者を募ることにした。</li> <li>・H23 年度技術士第二次試験合格者が発表され、中大からは 61 名が合格した。( 全大学 12 位、私大 4 位 )</li> </ul>
平成 24 年度 第 1 回幹事会	4 月 19 日 ( 木 ) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報部会からニュースレター最新号発行について原稿の督促があった。</li> <li>・技術者倫理の講義が始まった。</li> <li>・平成 23 年度技術士一次、二次試験合格者から入会申し込みが多く届いている。事務処理の効率化について広報部会から提案があり、今後実行していく。</li> </ul>
第 2 回幹事会	5 月 8 日 ( 火 ) 18 : 30 ~ 20 : 00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部会から活動報告があった。</li> <li>・総会での各担当者を決定した。</li> <li>・各学科との協力事項について、状況の説明があった。</li> </ul>

## ■ CO2 環境対策研究会

本研究会は、地球規模の課題となっている CO<sub>2</sub> 対策について勉強しつつ、大学、企業等が持つ CO<sub>2</sub> 対策に関係する技術の相互利用、或いは技術の移転や共同研究を円滑に進めることができる集まりとして 2008 年に発足し、今年で 4 年目になります。

すでに幾度かニュースレターで当研究会の活動をご紹介しますが、以下に、改めて研究会の設立経緯と概要をお知らせします。

### 設立経緯

現在、世界的に地球温暖化、或いは化石燃料の使用増大を防ぐ等地球環境にこれ以上 CO<sub>2</sub> を増やさない技術の開発・利用が進められており、まさに今世紀最大の課題となっています。

我々もこの問題に取り組もうと、中央大学理工学部の先生方(中大出身で他大学の先生も含む)と中大技術士会が中心となって「CO<sub>2</sub>環境対策技術研究会」を設立致しました。

本研究会では大学の先生や技術士に加え、CO<sub>2</sub>を減少させるプロセスや装置を持つ企業、省エネ技術を持つ企業、或いはそれらのプロセスを使いたい企業等の参加を期待しております。

また将来、中央大学理工学部応用化学科 大石克嘉教授のCO<sub>2</sub>吸収材の実用化を通して、本研究会から国や企業の支援を頂けるプロジェクトを作り出したいと思っています。

## 概要

名 称：CO<sub>2</sub>環境対策技術研究会

目 的：CO<sub>2</sub>環境対策技術に関する勉強・共同研究・相互利用・技術移転・広報を行うことにより環境と科学技術の向上に資する。

個人会員：中大技術士会会員、中央大学の先生(上記注記を含む) 本会に入会希望する方

法人会員：本目的に賛同する企業、団体

研 究 会：年3回程度開催。講演会と見学会を兼ねる。

年会費：個人会員 3,000円、法人会員 12,000円、学生会員 無料

現在の役員：

会 長：村上和雄 工学博士 東京家政大学名誉教授

副会長：大石克嘉 理学博士 中央大学理工学部教授

副会長：金川 護 技術士 中大技術士会会長

幹事長：内藤堅一 技術士 中大技術士会副会長

## 活動報告

本研究会は8月から翌年の7月を1期としていますが、本号では前号(2012年1月17日発行)以降の活動内容を報告します。

なお、詳しい報告は当会HP(<http://www.chuo-u-pej.org/>)をご覧ください。

行事名	開催日程	活動概要
第12回研究会 参加者：見学会25名 交流会15名	1月20日(金) 報告会14:00~17:00 交流会17:30~19:00	昭和電工(株)川崎事業所の見学及び講演会： 「アンモニアプラントにおけるCO <sub>2</sub> 除去設備の紹介」と質疑応答 交流会：川崎駅前「さくら水産川崎駅前2号店」
H23年度 第5回幹事会 参加者：幹事6名	2月2日(木) 18:30~20:00	第12回研究会(昭和電工)の報告 第13回研究会の企画：東京ガス(南千住)を候補 話題提供：中尾幹事「電気事業の概要について」
H23年度 第6回幹事会 参加者：幹事10名	4月5日(木) 18:30~20:00	第13回研究会(東京ガス)の応募状況：15名 研究会事務局の住所、メールアドレスの変更 (中大大石研) 入会案内、申込書の変更：学生会員の追加 第14回研究会の企画： 9月中旬東京都東部スラッジセンター(下水汚泥を炭化処理 火力発電所に移送) 第3回報告会の企画 8月18日(土)14:00 発表者：村上会長、大石副会長、中尾・松本幹事

行事名	開催日程	活動概要
		話題提供：村上会長「コンビニで市販されているおむすびに関する考察」

## ■ 部会報告

当会には総務部会、企画部会、広報部会及び大学支援部会の4つの部会があります。皆様、ともに活動しませんか？活動してみたい方は、幹事会（toiawase@chuo-u-pej.org）までお知らせください。

部会名	報告概要
総務部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会準備、幹事会の開催、運営を行った。</li> <li>・日常的な名簿の管理を行っている。 会員数：会員 212 名（技術士 181 名、技術士補 31 名）、準会員 7 名（5/15 現在）</li> <li>・日本技術士会主催の技術士会第一次試験合格祝賀会（1月28日（土）於：学士会館）に参加し、当会の活動内容の説明を行うとともに入会勧誘を行った。</li> </ul>
広報部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的なホームページの維持管理を行っている。</li> <li>・昨年12月にホームページの公開に使用しているサーバを変更するとともに、支部への昇格に伴いホームページのURLを変更した。</li> <li>・ニュースレターの作成を行った。</li> </ul>
企画部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総会時の記念講演会の準備、調整を行った。他の講演会についても企画中。</li> <li>・中大法曹会と相互に交流を図っている。</li> <li>・中大公認会計士会と相互に交流をため、中大技術士会定時総会に会長他2名をお招きすることとした。</li> </ul>
大学支援部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気電子情報通信学科を多少とした技術士ガイダンスを開催し（2月1日（水）於：中大理工学部）、技術士及び技術士制度の説明を行った。</li> <li>・2011年度から始まった理工学部都市環境学科「技術者倫理」の講義（4月～7月）への講師派遣等の調整を行った。なお、全15回の講義のうちの14回を当会の幹事が担当する。</li> <li>・「科学技術と倫理」への講師の派遣等の調整を行った。本年度も2名の講師を派遣する。</li> </ul>

## 活動計画

以下に今後の本会の活動計画をご案内します。皆様、奮ってご参加ください。

### ■ 第8回定時総会

日時：5月26日（土）

場所：中央大学後楽園キャンパス 5333 教室

内容：14：00～15：00 総会

- 15 : 30 ~ 16 : 30 特別講演 中央大学理工学部電気電子情報通信学科教授 橋本秀紀氏  
演題：「空間とロボットの融合を目指して - 空間知能化 - 」
- 17 : 00 ~ 18 : 30 交流会

## ■ その他の活動計画

行事	日程	内容
「科学技術と倫理」講義	2012年5月15日(火) 2012年5月22日(火)	場所：中大理工学部 内容：講師2名派遣
CO2環境対策技術研究会 第13回研究会	2012年5月18日(金)	場所：(株)東京ガス(南千住) 内容：見学会、講演会、交流会
「技術者倫理」講義	2012年4月~7月	場所：中大理工学部 内容：講師14名派遣
第8回定時総会	2012年5月26日(土) 詳細は上記参照	場所：後樂園キャンパス 内容：講演会及び総会
CO2環境対策技術研究会 第3回報告会	2012年8月18日(土) 調整中	場所：未定 内容：研究動向の報告等
CO2環境対策技術研究会 第14回研究会	2012年9月14日(金) 企画中	場所：東京都東部スラッジセンター (砂町) 内容：見学会、講演会、交流会
中大技術士会主催講演会	2012年10月19日(金) 調整中	場所：中大理工学部 講師：生命科学科 原山教授
ホームカミングデイ (八王子本校)	2012年10月28日(日)	場所：八王子キャンパス 内容：ホームカミングデイ出展
理工白門祭	2012年11月 詳細な日程は未定	場所：後樂園キャンパス 内容：理工白門祭出展
技術士ガイダンス	一次試験申し込み期間中	場所：中大理工学部 内容：一次試験受験に関するガイダンス (全学科を対象) ・受験申込書の書き方、試験概要 ・勉強方法、合格者からのメッセージ

上記以外にも、幹事会(ほぼ毎月開催)や多くの行事を開催します。また、「大学との折衝」「各学部との交渉」なども行います。会員の皆様にも気軽にご参加いただきたく、役員・幹事一同お待ちしております。

## エッセイ

今回は、当会ホームページの作成・管理を行っている小林進広報部会長による「ホームページのアドレスに込めた思い」、昨年度技術士第二次試験に合格した篠崎博文幹事の「二次試験合格体験談」をお届けします。

### ■ 「ホームページのアドレスに込めた思い」：小林 進さん(情報工学部門)

昨年、12月にホームページの公開に使用しているサーバを変更しました。また、支部への昇格に伴い、中大技術士会と名称が改まったこともあり、ホームページのURLを「<http://www.chuo-u-pej.org>」に変更しました。今回は、このURLを決めるに当たっての思いを紹介します。

中大技術士会は中央大学の関係した技術士または技術士補になる資格を有する者が会員となった集まりです。この意味をドメイン名に含めたいと長



年思っており、「chuo-u-pej.org」にこの次の意味を持たせています。

- ・ chuo-u：中央大学のドメイン名から借用し、中央大学に関係した会であることを示しました。
- ・ pej：技術士を示しています。技術士の英文表記「Professional Engineer」の略称「P.E.jp」と日本技術士会の英文表記「The Institution of Professional Engineers, Japan」の略称「IPEJ」を参考に「pej」としました。

ちなみに、「org」はインターネット上で定義されているドメイン名で、非営利団体を示すものです。中大技術士会は「会員相互の交流を図り、母校である中央大学の発展と技術士制度の普及および、会員の発展を目的とする」を理念としていることから採用しています。

このような思いを込めたドメイン名を広めるためにも、新設したサーバを有効に活用したいと考えています。この一貫として会員の皆さんが手軽に情報共有を行えるようにするために試行的に掲示板を設けていますので、是非、有効に活用してください。また、幹事会からも会員の皆さんに有益な情報を提供して行きたいと考えていますので定期的にアクセスしてください。

#### ■ 「整体師と技術士は一心同体！」：篠崎 博文さん（機械部門）

「貴君がどんな手段を使っても、初志貫徹を貫いて、技術士に合格するまでつきあうということです。苦しいときは、本当に[初心]戻って考え直しましょう」「技術士を目指して頑張ってください。一緒に戦ってきた戦友として、いつも応援しています」

お二人の技術士の先生の励ましのメールでした。

96年に一次試験に合格し、その後何度もチャレンジしても合格できない技術士試験。先生との約束も守れず、思い悩んでいるうち、いつの間にか整体師になっていた・・・

それでもどこかで「技術士」の文字を忘れることができずに過ごしてきました。

そんな時、去年3月「東日本大震災」が発生しました。巨大地震と大津波が東北地方を襲い、大多数の犠牲者を出したあの震災・・・

整体師も技術士もない！一心同体となって、頑張っていかなければいけない！もう一度、もう一度受験してみよう！日本全体が大変なことになっている状態で迎えた春、私の新たな挑戦が開始されました。

「篠崎さん！当たり前のことを解答用紙に書いてはいけません。試験官は上手です。専門の事は受験生よりも良く知っています」「それではどのような事を書いたら良いのでしょうか？」「篠崎さんは整体治療院で、どのような事をやられていますか？」

「ロボット工学を応用し、患者さんの診断をしています」

「そうですよ・・・それです！その知識を使って解答すれば良いんですよ」

「試験官に『ほ～こんな方法もあるのか・・・』と思わせることです」

筆記試験の指導をしてくださった講師の方のアドバイスでした。頭を殴られた思いでした。

「自分の経験した事を解答として使用する・・・どうして今まで解らなかったのか・・・」

試験問題から自分が行ってきた経験を整理する。今自分が抱えている問題から予想問題を作成

する。技術士の試験勉強は、本当は自分にとって楽しい勉強だったかもしれない。今まで何を苦しんできたのだろうか。考えが一転し、新たに開始された受験勉強でした。

そしてそれから2か月後、平成23年8月7日。再び迎えた技術士第二次試験。私は「どうせ合格しないのだから、思い切り自分の経験を書いてみよう」と臨みました。

予想した問題がほぼ的中し、今まで自分が整体治療院で行ってきた事、悩んで解決してきた事を解答としてまとめました。中身は整体でも、その中には工学的考察を確り埋め込みました。

「こんな解答はどこにも無いかもしれない」意外と楽しい試験でした。筆記試験合格を確認したのは10月下旬でした。

「よく合格した。信じられない・・・」それが正直な気持ちでした。

しかし私が技術士になるため応援してくれた、お二人の技術士の先生は、いずれも故人となっております。「筆記試験合格を伝えたくても、先生は亡くなってしまった・・・もういない・・・」いくら喚いても叫んでも、もう伝わらないのです。今はただ心からご冥福を祈るだけとなりました。

人間は生きていてこそ・・・です。せめて両親が生きている間に合格を伝えよう！と強く思うようになりました。「こうなったら何が何でも合格してやる！次は口頭試験だ！」

しかし口頭試験は初めての経験です。自分がどのように勉強して行けば良いのか？全く分かりませんでした。その時中大技術士会の幹事の坂林先生が「技術士試験突破のための講習会を開いている」という情報が入り、早速申し込んで受講することにしました。全く未経験で、口頭試験の勉強もしていなかった私にとって、講習は悲惨なものでした。

口頭試験まであと一月弱。「自分に欠けていたものは何か？」「何が知識不足なのか？」を講習後徹底的にチェックし、鬼と化して勉強を開始しました。

まずは練習問題を作成。次にその解答を口で言う練習をすることにしました。この勉強は凄まじく、周りの人々を巻き込む大変なものになりました。相手かまわず試験官に仮定し、口頭試験の練習をしました。私の家族はもちろん、多くの隣人までが試験勉強の餌食になりました。

「やると決めたら必ずやる！皆が見ていてくれる。中大技術士会の人達も、家族も友達も、そして亡くなった先生も・・・」

口頭試験は12月上旬でした。自分の名前が呼ばれ、そっと部屋の入口に立ちました。「もうこれで終わるんだな・・・96年に一次試験に合格し、今日まで続いた長く苦しい旅はもうこれで終わるんだ」そんな思いが頭の中を駆け巡りました。

口頭試験は想像通り厳しいものでした。間違えて答えたり、答えられないことに対して、厳しい訂正と指導を受けました。「あなたが技術士になったら！そんな事ではダメだ！」試験を受けているのか、今後の指導を受けているのか、全く分かりませんでした。しかし講習で勉強した90%以上が出題されました。しかも今まで封印されていた、知識全てが引き出されるような試験で大きな手ごたえを感じました。知らずに試験にのめり込んで行く自分を発見しました。それと同時にだんだんと試験官に親しみを感じ始めたのです。「この試験官・・・何となくどこかで話をしたことがある気がする・・・そうだ！『技術士に合格するまで付き合う』そう言って、いつもお応援してくれた亡き先生だ！」そうです。試験官に亡き先生の面影があったのです。試験も終盤に

差し掛かった時の事でした。「よし！先生に自分自身の全てをぶつけるつもりでやってみよう。そして『必ず技術士になる！』という約束を果たそう」私のラストスパートでした。

試験は40分ほどでした。厳しい試験官でしたが、最後は私の解答に静かにうなずき、終了となりました。試験勉強の知識だけではなく、今まで封印されていた知識まで引き出される、非常にシビアな試験でしたが、最後は静かな雰囲気で行われました。すっきりした気持ちで試験場を出ると、雲一つない青空が出迎えてくれました。「やるだけのことはやった。あとは結果を待つだけだ」

平成24年3月5日。今日はいよいよ合格発表の日！恐る恐るパソコンを立ち上げると、多数の着信メール。まずは総合技術監理部門を受験された、幹事の小柳先生の吉報！その後「おめでとうございます。」と言う一通のメール。何と合格者として「官報」に私の名前が載っていた・・・と言うメールでした。幹事の中尾先生からでした。「えっ！俺も合格したの？」心の緊張が取れ、その後技術士会のホームページで、自分の受験番号を見つけました。合格を確認した瞬間でした。こうして長かった私の「エンジニア武者修行の独り旅」は全て終わったのです。これからは新しいスタートラインに立ち、出発です。

こうして無事技術士になることができました。やっと中大技術士会の人達の仲間入りをする事が出来たのです。これからも頑張りたいと思います。今は新緑の季節です。幹事の一人として日帰り旅行の企画もしたいと考えています。色々手が回らないことがあります。今後ともどうかよろしくお願いいたします。

最後に試験合格まで、中大技術士会の方々には大変お世話になりました。改めてお礼を述べさせていただきます。ありがとうございました。

## 技術士第一次試験合格者から

このコーナーでは、技術士一次試験合格者の方に受験の動機、勉強方法、技術士への思い等について書いていただきます。今回は今年物理学科を卒業した長谷川淳一さんの体験談です。

### ■ 「凡学生が修習技術者になる意味」：長谷川 淳一さん（電気電子分野修習技術者）

物理学科若林研での卒業実験を経て今年2012年に卒業、今は東工大電子物理工学専攻で波多野睦子先生にお世話になっている。大学2年次10月の段階で技術士第一次試験に合格し、電気電子部門修習技術者となった。本稿では合格に向けて行った対策について少し触れると共に、私にとって修習技術者の意味合いが合格前後でどう変遷したかを記したい。



研究室にて

### 技術士第一次試験受験を決めるまで

電気電子の知識に初めて触れたのは東工大附属高校情報システム分野在学中の事だった。何の因果か中大物理学科に進むことになった時、せっかく得意にした電子回路設計をこのまま捨て去るのは勿体無いと思い、電気電子部門修習技術者に

なる事を検討した。技術士と違って法定でない呼称にすぎないが、学生でありながら「技術者」という肩書きを名乗れる事に惹かれたのである。二次試験の難易度と知名度のなさから躊躇していたが、文化祭で白門技術士会（当時）の方から直接パンフレットを頂く機会があり、この出来事が背を押した。

### 準備

共通科目の数学と物理は高校卒業もしくは大学 1 年レベルの出題が多く、また適正科目は新規に勉強すべき事があまりなく、これらは特に何も対策をしなかった。基礎科目と専門科目はいずれも範囲が広く、受験対策専門の書籍をそれぞれ 1 冊ずつ購入して対処した。電検で扱われるような重電系の技術はそもそも高校で学んでいなかったが、専門科目受験対策本で簡単に学んだ。

### 受験時

技術士第一次試験は 8 時間もかかる試験で、最後の辺りは疲弊した。試験受験のために授業もいくらか欠席しなければならなかったが、のちにいずれも A 評定を取れたので、実害はなかった。第一次試験で最も高得点を取れたのは適正科目である。専門科目は苦戦して誤答も多かった。

### 受験後

合格通知と共に一次試験合格者歓迎会への参加を呼びかけるチラシが入っていた。この歓迎会への参加が、修習技術者という肩書きに対する見方を大きく変えた契機となる。修習技術者は単なる名ばかりの肩書きではなく、継続研鑽を行う場に出る行為を通して「修習技術者」の名をより活かせる事、むしろ積極的にその場に出る事が求められる事をようやく自覚したのである。また研鑽の場で必ずと言っていいほど、人脈形成や情報交換を目的とした情報交流会が付帯する事も初めて知った。

修習技術者になって終わりではなく、修習技術者になった事により研修の責務と引換に、サークルや大学からは見えない世界に飛び出す事が出来たのである。ただの学生が課題設定力/問題解決力を養成する研修会に参加できたり、情報交流会に参加できたりするメリットは大変大きなものだった。

### 技術士への抱負

大学院入試や物理学研究部創建の為に 1 年半も研修会に顔を出せなかったが、今年 4 月から日本技術士会修習技術者研修会に再び参加するようになった。研修会ではなるべく早く技術士になってほしいとお言葉がある中恐縮だが、副業原則禁止（技術士補助が難しい）とか博士一貫課程教育院新規創設とかの話があるので、私は急いで技術士になるつもりはない。実務経験が二次試験受験資格を満たすまで、極力絶やさず継続研鑽をし、また二次試験を意識した研究への取り組みをしていきたいと思う。

ニュースレターへのご意見、ご感想をお待ちしています。 [toiawase@chuo-u-pej.org](mailto:toiawase@chuo-u-pej.org)  
2012 年 5 月号 中大技術士会 広報部会 発行